

苦いものには毒もありますが良薬も多し

ニガキ (ニガキ科)



Picrasma quassioides Bennet

部位	木部
生薬名	苦木 (ニガキ) 局方収載
成分	クアシノイド (苦味成分、変形トリテルペン) : クアシン (別名ニガキラクトン D) など
薬理	苦味健胃作用、抗菌作用、駆虫作用
用途	苦味健胃薬

日本、台湾、朝鮮、中国、インド、ヒマラヤなどに分布する落葉高木で高さ10mを超えることもあります。雌雄異株で当園では雌株を植栽しています。花は5mmほどで小さく、黄緑色で目立ちません。水はけの良い比較的湿度のある谷筋などを好み、乾燥すると弱ります。ニガキは全体にミカン科のキハダ (生薬・黄柏の原植物で、薬用植物園だよりではまだ紹介していません) によく似ています。また、樹皮を除いた木部が薬用部位です。和名のとおり、味は極めて苦く、残留性ですが、木部の心材は苦味が弱く、苦味成分のクアシノイド含量も低いです。この生薬は、漢方薬には使用されていませんが、皆さんがよく知っている「太田胃散」などの家庭薬 (OTC薬) に配合されています。植物の名前には苦味に由来するものも多く、「ニガウリ」、「ニガナ」や千回振り出しても苦い「センブリ」、あまりにもの苦さでクラクラする「クララ」、倒れた人が苦さのあまりに起き上がる「ヒキオコシ」など興味ある薬草が沢山あります。

カキドオシ (シソ科)

小児の夜泣きにも利用された薬草

Glechoma hederacea L. subsp. *grandis* (A.Gray) H.Hara

部位	開花期の全草
生薬名	連銭草 (レンセンソウ)
成分	ロスマリン酸、カフェ酸、精油など
薬理	胆汁分泌促進、血糖降下作用、利尿作用
用途	民間薬として利尿や抗炎症を期待しての健康茶



日本、台湾、朝鮮、中国、シベリアなどに分布するつる性の多年草。花期には茎が写真のように立ち上がっています。その後、つる状に地面を這うように伸び、節々から根をよく出して生息範囲を広げ、垣根を通り抜ける様子が名前の由来になっています。また、小児の疳や夜泣きに効果があるとして「カントリソウ」という別名があります。長く伸びた四角い蔓に丸い葉が付いている形態が穴の開いたお金に糸を通して見えるように見えるので「連銭草」という生薬名が付けられています。民間薬的に腎臓結石や糖尿病、高血圧、神経痛などの効果を期待して利用されてきました。ハイキングなどをすると身近に観察できる植物なので、見つけて観察してみましょう。



ホームページでも
ご覧いただけます